

2023年3月期決算説明

2023年5月12日

 日本カーバイド工業株式会社



2023年3月期決算の概要



サマリー【連結損益計算書】

- 全体として資源価格や原材料価格の高騰長期化の影響を受ける
- 電子・機能製品事業については、コロナ特需の収束に伴い、液晶パネル向けやパソコンやサーバー、通信機器など電子部品向け製品の出荷が3Q以降大幅減少
- フィルム・シート製品事業については、コロナ禍からの回復に伴い、東南アジアでの二輪車向けの出荷が年初から増加。欧米でのインフレに伴う自動車販売台数の減少により、自動車向け製品の出荷が減少
- 以上の結果、前期比**減収減益**
- 当期純利益は減損損失の計上もあり、減益

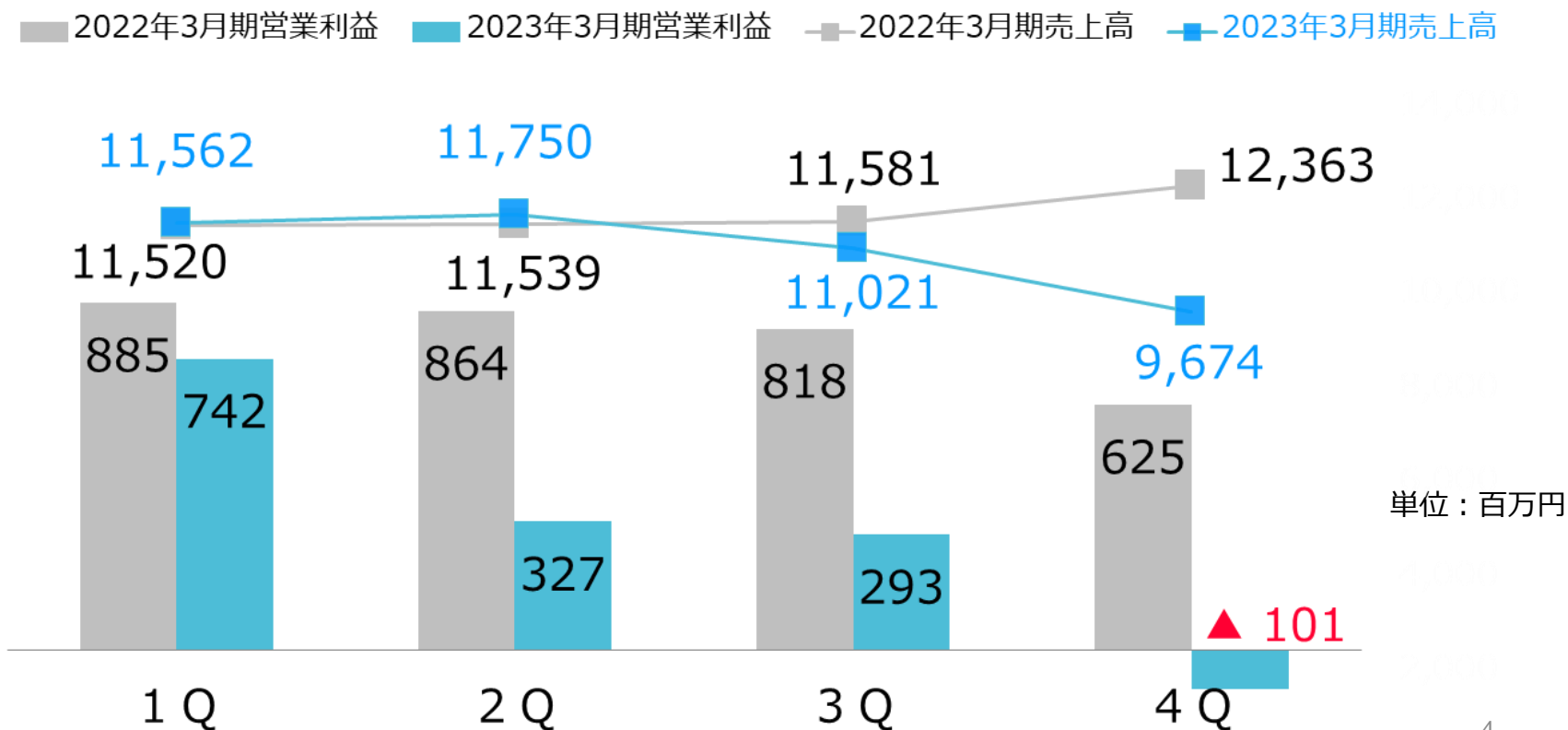
単位：百万円

	2022年3月期	2023年3月期	前期比	
	実績	実績	増減額	増減率
売上高	47,003	44,008	▲ 2,995	▲6.4%
営業利益	3,192	1,261	▲ 1,931	▲60.5%
営業利益率	6.8%	2.9%	—	▲3.9ポイント
経常利益	4,055	1,902	▲ 2,152	▲53.1%
当期純利益	1,930	332	▲ 1,597	▲82.8%



四半期業績トレンド

- 売上高は上期が前年同期比ほぼ横ばいだったものの、下期は減収
- 営業利益は4四半期ともに減益
- 特に4Qは電子部品向け高付加価値品やナンバープレート向け製品の出荷の減少に加え、生産量減少に伴う収益性の低下などにより、101百万円の営業損失

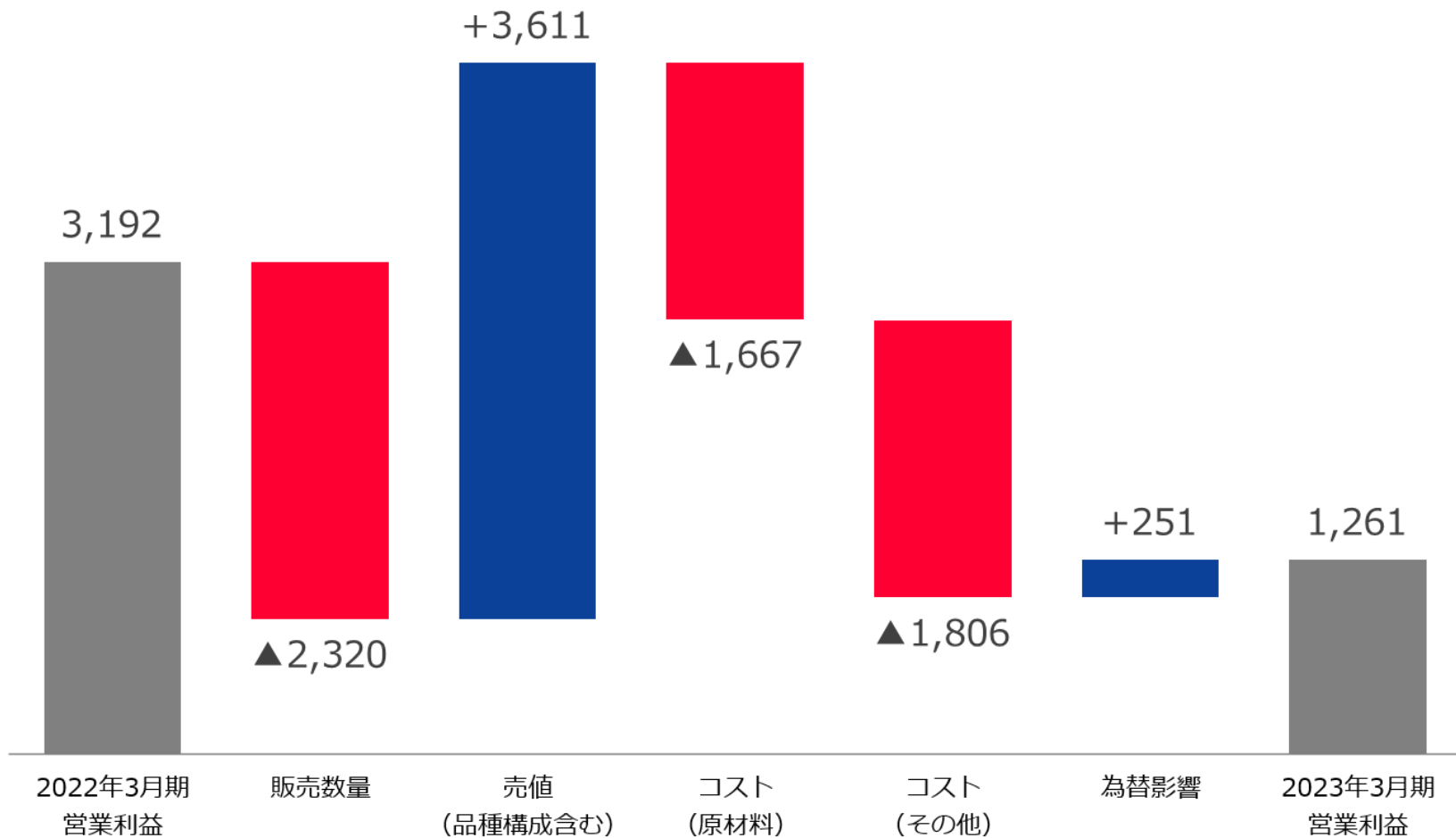


営業利益増減要因分析 2022年3月期v.s.2023年3月期



前期比 1,931百万円**減益**

単位：百万円



セグメント別業績



単位：百万円

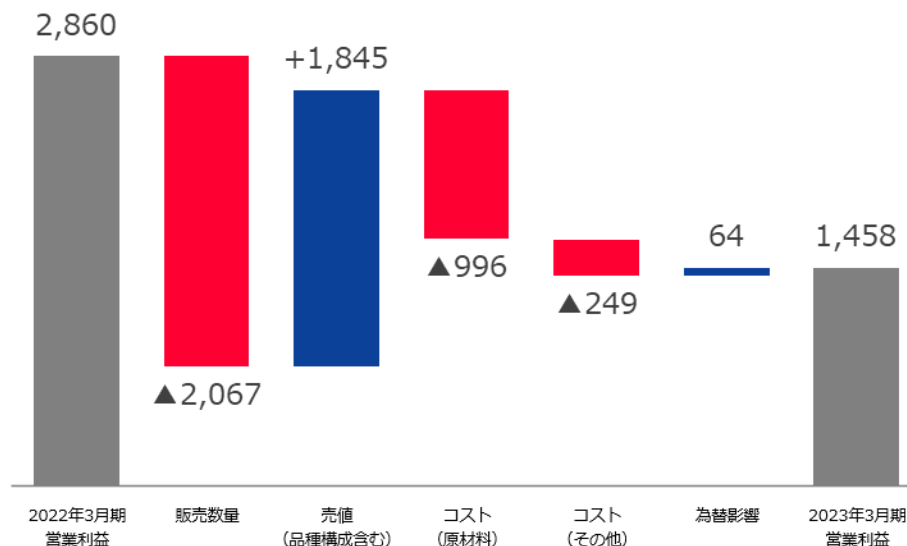
		2022年3月期	2023年3月期	前期比	
		実績	実績	増減額	増減比
電子・機能製品	売上高	20,473	18,128	▲ 2,344	▲ 11.5%
	営業利益	2,860	1,458	▲ 1,401	▲ 49.0%
フィルム・シート製品	売上高	16,172	16,603	430	+2.7%
	営業利益	285	143	▲ 142	▲ 49.8%
建材関連	売上高	7,507	7,589	82	+1.1%
	営業利益	279	258	▲ 20	▲ 7.4%
エンジニアリング	売上高	4,257	5,084	827	+19.4%
	営業利益	82	52	▲ 29	▲ 36.1%
連結調整	売上高	▲ 1,407	▲ 3,396	-	-
	営業利益	▲ 315	▲ 653	-	-
連結合計	売上高	47,003	44,008	▲ 2,995	▲ 6.4%
	営業利益	3,192	1,261	▲ 1,931	▲ 60.5%

セグメント別状況 電子・機能製品事業



単位：百万円

	2022年3月期	2023年3月期	前期比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	20,473	18,128	▲ 2,344	▲11.5%
機能化学品	3,738	3,603	▲ 135	▲3.6%
機能樹脂	9,560	8,340	▲ 1,220	▲12.8%
電子素材	7,174	6,184	▲ 990	▲13.8%
調整	0	0	-	-
営業利益	2,860	1,458	▲ 1,401	▲49.0%



機能化学品 減収減益

- + 下期から半導体市況は悪化したものの、半導体フォトレジスト用添加剤や電子部品製造用化学品の出荷は前期比増加
- 新型コロナウイルスPCR検査薬向け製品の出荷減少などにより、医薬品原薬の出荷が減少

機能樹脂 減収減益

- 液晶パネル関連の市況回復の遅れにより、光学関連分野向け粘・接着剤の出荷が減少
- ナフサ価格の高騰により、原材料コストが上昇

電子素材 減収減益

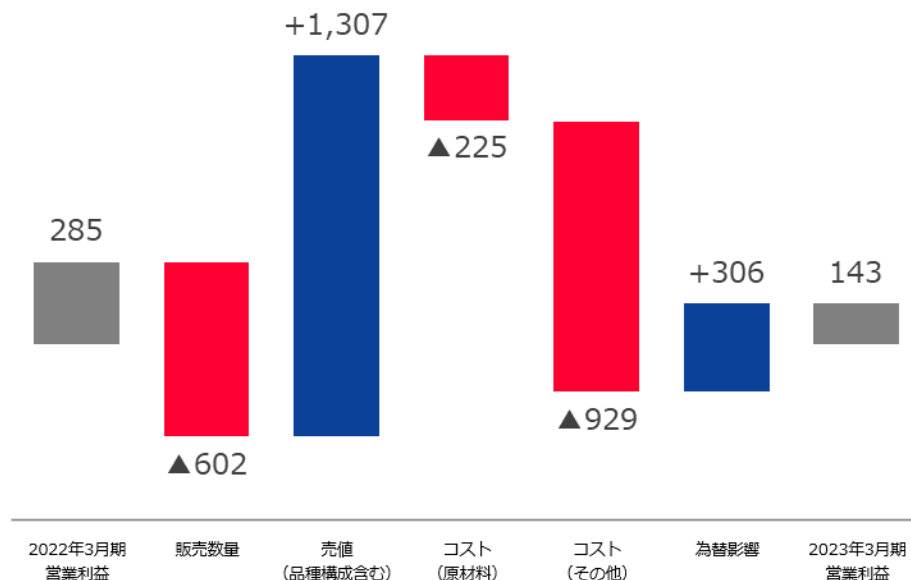
- コロナ特需の収束に伴い、パソコンやサーバー、通信機器などの電子部品向け高付加価値品の出荷が減少
- 世界的なインフレによる景気低迷により、汎用セラミック基板の出荷が減少



セグメント別状況 フィルム・シート製品事業

単位：百万円

	2022年3月期	2023年3月期	前期比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	16,172	16,603	430	+2.7%
フィルム	1,532	1,445	▲ 87	▲5.6%
ステッカー	5,270	6,269	999	+19.0%
再帰反射シート	9,370	8,888	▲ 482	▲5.1%
調整	-	1	-	-
営業利益	285	143	▲ 142	▲49.8%



フィルム 減収減益

- 屋外看板向け製品の出荷がコロナ禍からの需要回復力が弱く、減少
- + レーザーマーキングラベルの出荷が中国での新規採用により、増加

ステッカー 増収増益

- + コロナ禍からの回復に伴い、東南アジアでの二輪車向け3Dエンブレムの出荷が増加
- + 為替による損益へのプラス影響

再帰反射シート 減収減益

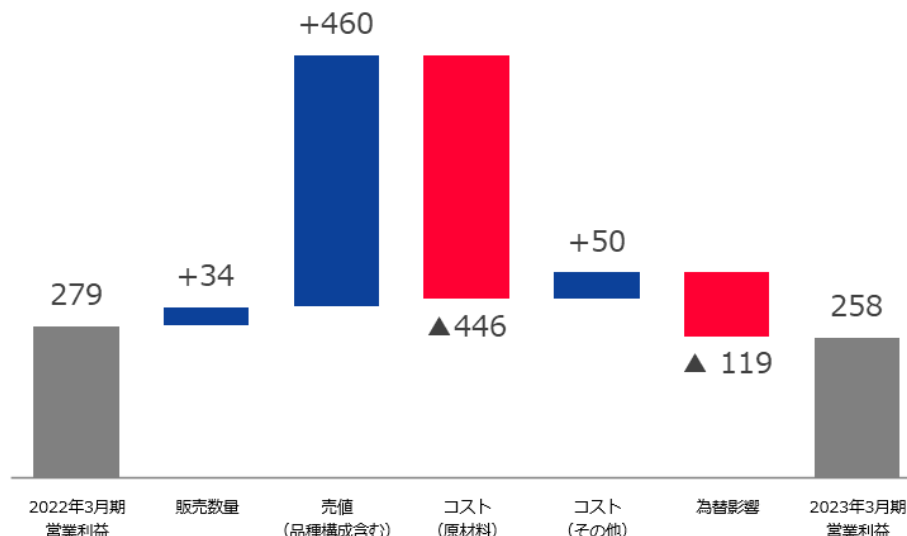
- 欧米でのインフレに伴う自動車販売台数の減少により、ナンバープレート向け製品の出荷が減少
- + 為替による損益へのプラス影響

セグメント別状況 建材関連事業



単位：百万円

	2022年3月期	2023年3月期	前同比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	7,507	7,589	82	+1.1%
営業利益	279	258	▲ 20	▲ 7.4%



増収減益

- + コロナ禍からの回復に伴い、遅れていたマンション建設工事の進展により、ビル用アルミ建材の出荷が増加
- アルミ地金価格の高騰により、原材料コストが上昇
- + 原材料コスト上昇に対する販売価格への一部転嫁



単位：百万円

	2022年3月期	2023年3月期	前同比	
	実績	実績	増減額	増減比
売上高	4,257	5,084	827	+19.4%
営業利益	82	52	▲ 29	▲ 36.1%

増収減益

- + グループ会社向け大型設備工事案件の完工により、売上が増加
- + カーボンニュートラル関連設備の販売により、売上が増加（TOPICS 成長ドライバー① ご参照）
- 景気の先行き不透明感による設備投資案件の先延ばし等により、エンジニアリング事業の売上が減少

【サマリー】 連結貸借対照表



自己資本比率は前期末比3.5ポイント改善し、50.5%

単位：百万円

	2022年3月期	2023年3月期	前期末比
現金及び預金	11,376	10,906	▲ 469
売上債権	14,773	12,211	▲ 2,562
棚卸資産	9,173	9,955	782
有形固定資産・無形固定資産	25,596	26,293	697
その他	3,627	2,473	▲ 1,154
資産合計	64,546	61,838	▲ 2,708
有利子負債	14,436	11,861	▲ 2,575
仕入債務	7,464	5,912	▲ 1,552
その他	10,596	10,978	382
負債の部	32,496	28,751	▲ 3,744
株主資本	23,546	23,789	243
その他の包括利益累計額	6,772	7,441	669
非支配株主持分	1,731	1,854	123
純資産の部	32,049	33,086	1,036
負債及び資本合計	64,546	61,838	▲ 2,708
D/Eレシオ	0.48	0.38	▲ 0.10
自己資本	30,318	31,231	913
自己資本比率	47.0%	50.5%	3.5ポイント

連結キャッシュフロー計算書



フリーキャッシュフローは1,458百万円（前期比478百万円減少）

単位：百万円

	2022年3月期	2023年3月期	前期比
税金等調整前当期純利益	2,627	1,221	▲ 1,405
減価償却費	2,068	1,991	▲ 77
運転収支	204	791	587
その他	▲ 602	▲ 397	205
営業活動によるキャッシュフロー	4,297	3,606	▲ 691
投資活動によるキャッシュフロー	▲ 2,360	▲ 2,147	212
フリーキャッシュフロー	1,937	1,458	▲ 478
借入金の増減額	▲ 4,226	▲ 2,508	1,718
配当金の支払額	▲ 580	▲ 563	17
新株予約権の行使による株式の発行	742	-	▲ 742
その他	▲ 146	▲ 144	2
財務活動によるキャッシュフロー	▲ 4,210	▲ 3,215	994
現金及び現金同等物に係る換算差額	709	740	31
現金及び現金同等物の増減額	▲ 1,563	▲ 1,016	547
現金及び現金同等物の期末残高	10,838	9,821	▲ 1,016



エレクトロニクス戦略市場を中心とした事業環境の変化に合わせ、設備投資計画の見直しを実施

単位：百万円

設備投資額	2022年3月期	2023年3月期	前期比
設備投資額	2,942	3,181	239
電子・機能製品	1,245	735	▲ 510
フィルム・シート製品	1,440	2,458	1,018
建材関連	55	65	10
エンジニアリング	91	26	▲ 65
共通・調整	108	▲ 103	▲ 211
減価償却費	2,068	1,991	▲ 76
電子・機能製品	665	746	80
フィルム・シート製品	674	619	▲ 55
建材関連	131	126	▲ 5
エンジニアリング	56	55	▲ 1
共通・調整	539	444	▲ 94
研究開発費	2,104	2,106	2

主な設備投資案件

- 電子部品用回路基板の生産能力増強
- 環境対策関連の設備投資
- DX関連のシステム導入

※設備投資額は、設備等が検収された時点をもって資産計上された金額。投資活動によるキャッシュフローの有形固定資産の取得による支出は検収された設備等の資金が実際に支払われた時点での金額となり、差異が生じる



2024年3月期決算の通期業績予想

2024年3月期 連結業績予想



売上高は前期比+10.2%の増収となる485億円、
営業利益は前期比+18.9%の増益となる15億円を予想

単位：百万円

	2023年3月期		2024年3月期		前期比		
	実績	利益率	業績予想	利益率	増減額	増減率	
売上高	44,008	-	48,500	—	4,492	+10.2%	
営業利益	1,261	2.9%	1,500	3.1%	239	+18.9%	
経常利益	1,902	4.3%	1,600	3.3%	▲ 302	▲15.9%	
当期純利益	332	0.8%	1,400	2.9%	1,068	+321.3%	
1株当たり配当	中間	30円	—	30円	—	0円	+0.0%
	期末	35円	—	35円	—		

2023年度は前期と同額の年間配当65円を予定

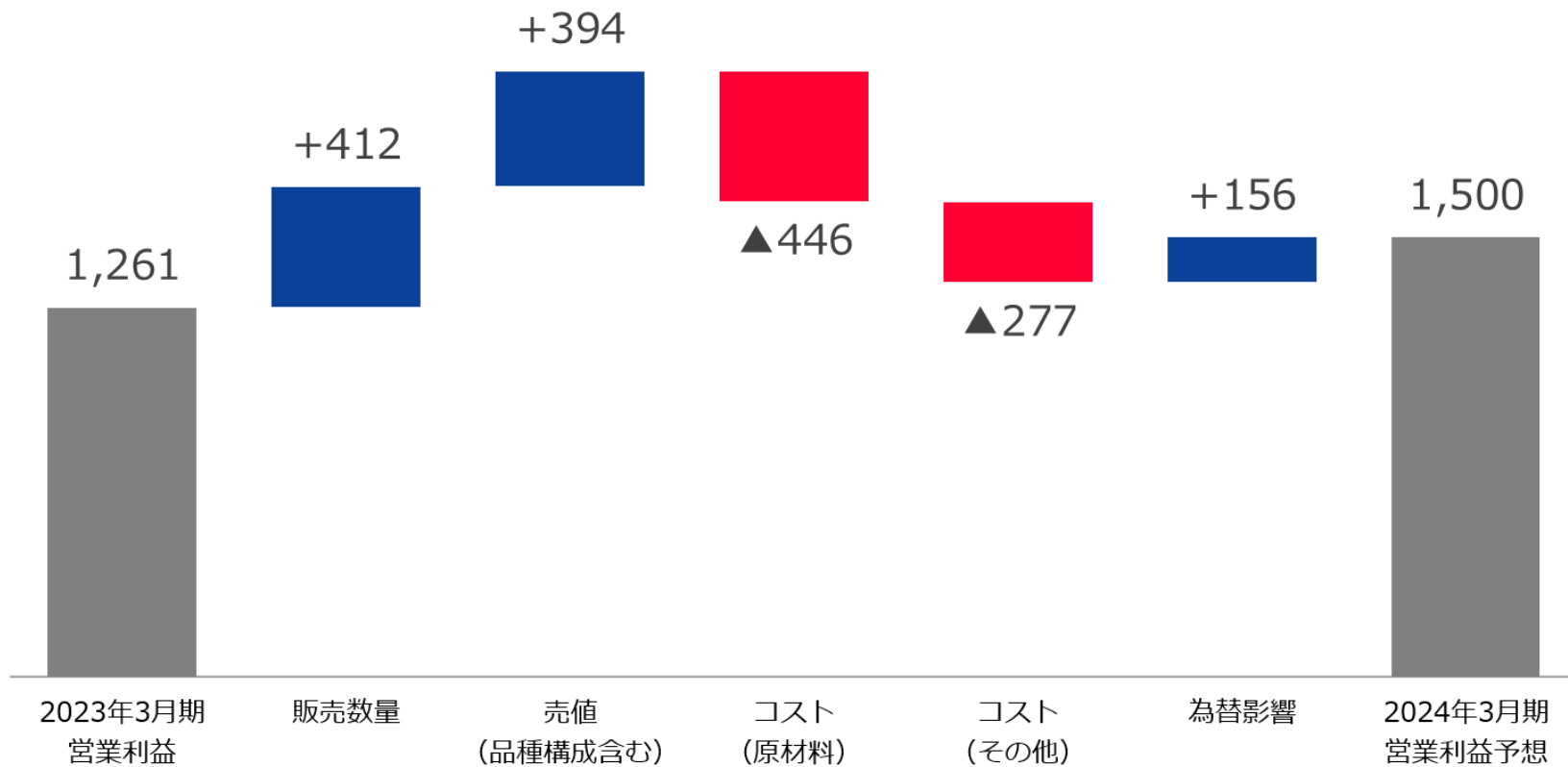
株主還元方針は、配当性向30%以上を目途に安定配当の継続を目指す

営業利益増減要因分析 2023年3月期v.s.2024年3月期



前期比 239百万円**増益**

単位：百万円



セグメント別 事業見通し



電子・機能 製品	機能 化学品	- 半導体向け製品需要の低迷により、電子部品製造用化学品の出荷が減少
	機能樹脂	+ 液晶パネル関連の市況回復により、光学関連分野向け粘・接着剤の出荷が増加
	電子素材	+ 中国国内の景気回復によりセラミック基板の出荷が増加 - 在庫削減による損益へのマイナス影響
フィルム・ シート製品	フィルム	- 減価償却費増による損益へのマイナス影響
	ステッカー	+ 二輪車販売台数の増加により、3Dエンブレムの出荷が増加
	再帰反射 シート	+ 世界的な自動車販売台数回復により、ナンバープレート向け製品の出荷が増加 + 米国での新規採用により、グラフィック製品の出荷が増加
建材関連	+ 超高層マンション着工件数の増加により、高強度高機能手すりの出荷が増加 - 戸建て住宅の着工件数の減少により、戸建住宅用アルミ建材の出荷が減少	
エンジニア リング	+ カーボンニュートラル関連の設備投資案件の増加により、国内製鉄および電力業界向けプラント等の売上が増加 - グループ会社向け設備投資案件の減少により、売上が減少	

セグメント別 業績予想



単位：百万円

		2023年3月期	2024年3月期	前期比	
		実績	業績予想	増減額	増減比
電子・機能製品	売上高	18,128	18,800	672	+3.7%
	営業利益	1,458	1,100	▲ 358	▲24.6%
フィルム・シート製品	売上高	16,603	18,600	1,997	+12.0%
	営業利益	143	910	767	+536.4%
建材関連	売上高	7,589	8,100	511	+6.7%
	営業利益	258	230	▲ 28	▲10.9%
エンジニアリング	売上高	5,084	3,200	▲ 1,884	▲37.1%
	営業利益	52	70	18	+34.6%
連結調整	売上高	▲ 3,396	▲ 200	-	-
	営業利益	▲ 653	▲ 810	-	-
連結合計	売上高	44,008	48,500	4,492	+10.2%
	営業利益	1,261	1,500	239	+18.9%



中期経営計画「NCIキラリ2025」進捗状況



進捗状況 財務目標

主要課題への対応（次ページ参照）を確実に実行していくことで、2023年度の業績予想の達成と成長軌道への回帰を図り、中期経営計画「NCIキラリ2025」で掲げている2025年度財務目標達成を目指す

	2022年度実績	2023年度業績予想	2025年度目標
売上高	440億円	485億円	620億円
営業利益	12億円	15億円	70億円
ROE	1.1%	4.4%	12%以上
D/Eレシオ	0.38倍	0.41倍	0.5倍以下

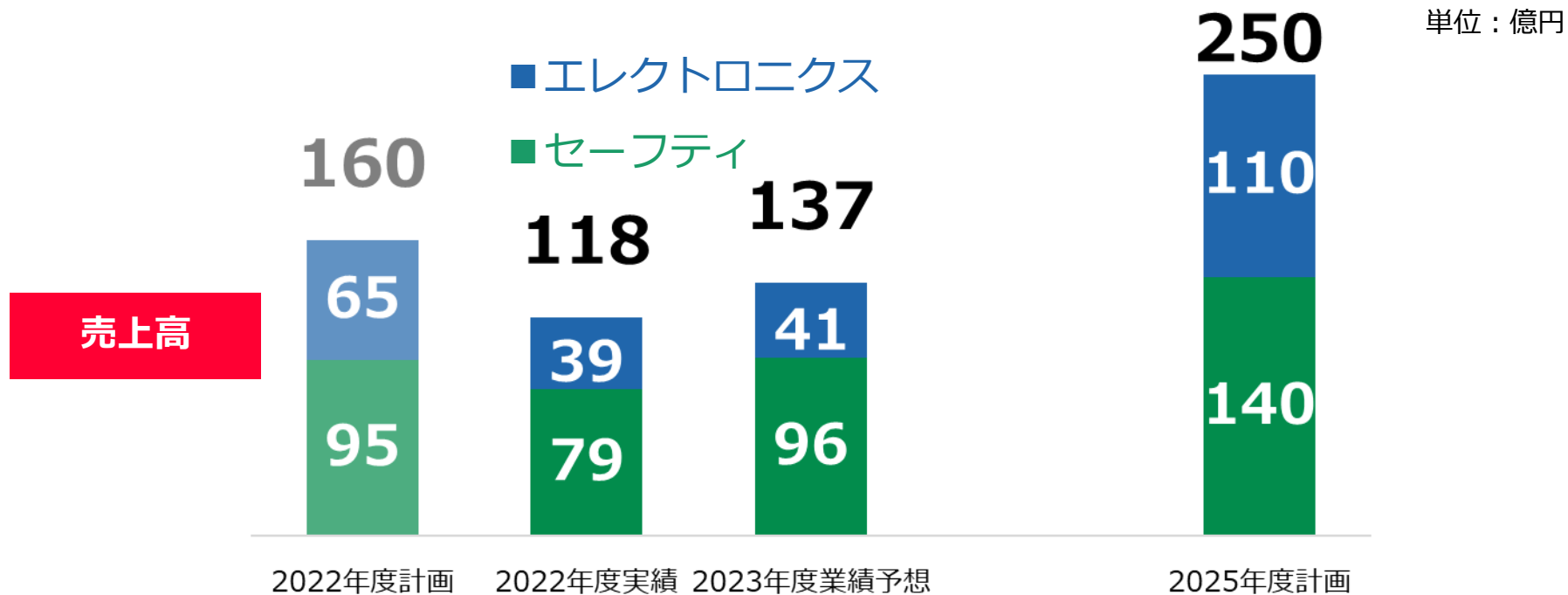
主要課題と対応



セグメント	分野	主要課題	2025年度に向けた対応
電子・機能製品	戦略市場分野	<ul style="list-style-type: none"> 半導体材料用化学品を中心とした高付加価値品の拡販 中国市場での半導体用金型クリーニング材などの拡販 	<ul style="list-style-type: none"> お客様との技術交流による新たなニーズの発掘 中国拠点でのお客様サポート体制強化による市場拡大への対応
	その他分野	<ul style="list-style-type: none"> 中国市場での光学用粘着剤などの拡販 	<ul style="list-style-type: none"> 国内での研究開発バックアップ体制と中国でのテクニカルサービスの強化
フィルム・シート製品	戦略市場分野	<ul style="list-style-type: none"> 次世代高機能フィルムでの新規ビジネス拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 多層広幅フィルム製造設備による自動車や二輪車、エレクトロニクス分野向け高機能製品の市場投入
	その他分野	<ul style="list-style-type: none"> 米国でのグラフィック市場向け反射シートの拡販 	<ul style="list-style-type: none"> 大手ディストリビューターとの連携 高品位製品での差別化
建材関連	戦略市場分野	<ul style="list-style-type: none"> 超高層ビル向け高強度高機能手すりの拡販 	<ul style="list-style-type: none"> 戦略市場分野へのリソースの重点配分
	その他分野	<ul style="list-style-type: none"> 顧客ニーズの探求による製品の高付加価値化 	<ul style="list-style-type: none"> EV車用カーポート製品等の新製品開発 LED照明製品（手すり・笠木）の拡販
エンジニアリング	戦略市場分野	<ul style="list-style-type: none"> カーボンニュートラルトランジションでの事業機会獲得によるビジネス拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 長年培った粉体搬送技術を武器にお客様ニーズへの対応推進
	その他分野	<ul style="list-style-type: none"> EPC事業の拡大 	<ul style="list-style-type: none"> 施設内常駐によるお客様との協力関係強化



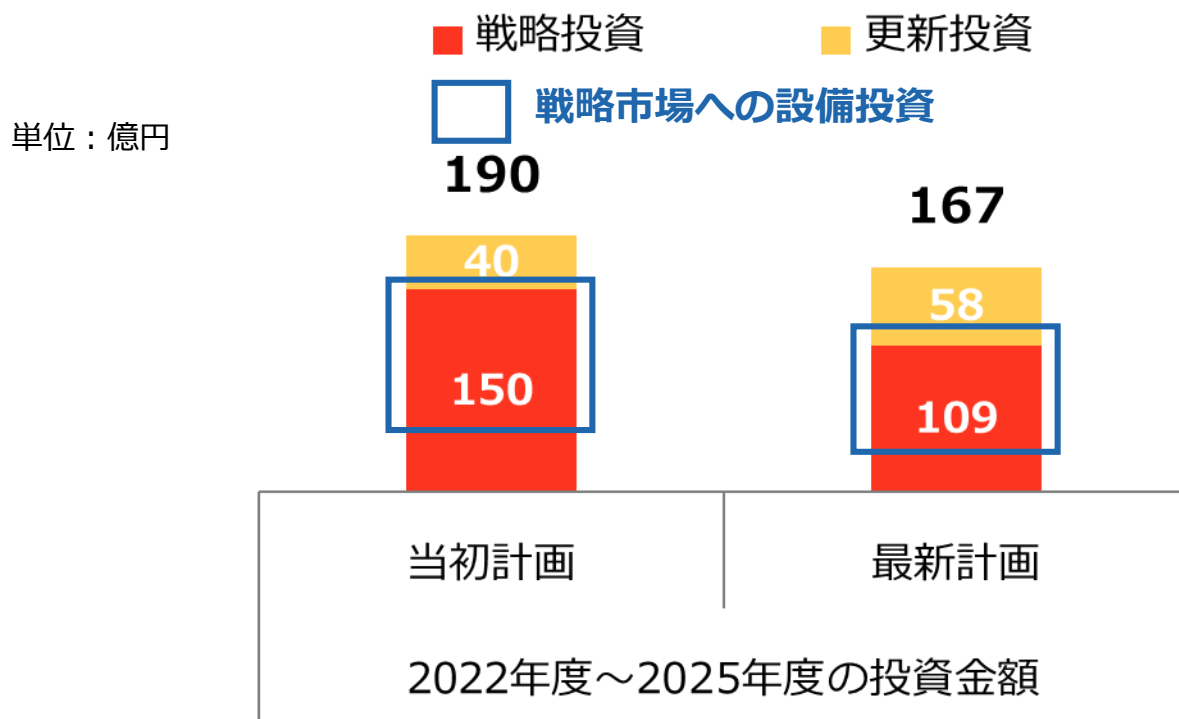
2023年度の**エレクトロニクス戦略市場**での売上高は41億円、**セーフティ戦略市場**での売上高は96億円、**戦略市場**全体での売上高は137億円、**戦略市場**全体での営業利益は14億円と予想



売上高比率	31%	27%	28%	40%
営業利益	24	10	14	50



エレクトロニクス戦略市場関連を中心とした事業環境の変化に伴い、
設備投資計画の見直しを実施



主な設備投資案件

- 電子部品用回路基板の生産能力増強
- ステッカー製品の生産能力増強
- DX関連システムの導入
- 反射シート製品の生産能力増強

戦略市場への
設備投資

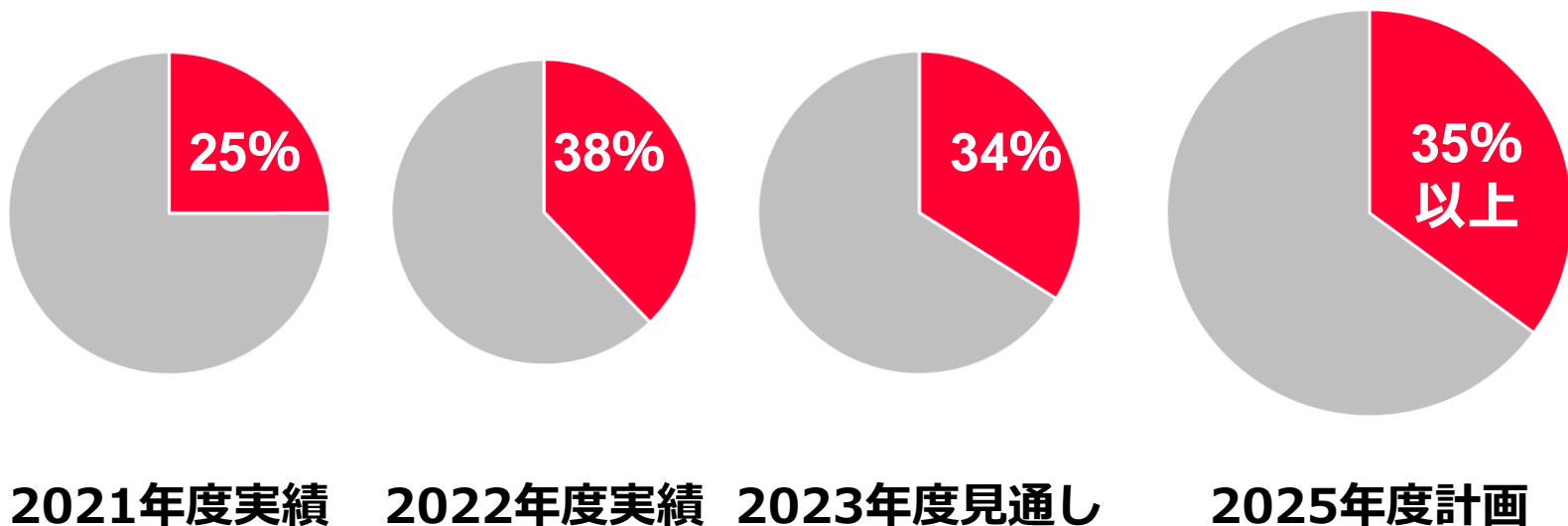
110億円

94億円



研究開発体制の強化

戦略市場分野での新製品売上高比率は、2021年度は25%（31億円）、2022年度は38%（45億円）の実績。2023年度は34%（46億円）を計画し、2025年度で35%以上（90億円）を目指す



新製品
売上高

31億円

45億円

46億円

90億円



カーボンニュートラルトランジション設備

国立研究開発法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）の委託業務として、電気事業の課題解決に向けた中央研究機関である一般財団法人 電力中央研究所が受託した「多様な燃料を利用するCO2 回収型ポリジェネレーションシステム基盤技術開発」（JPNP16002）において、当社グループのダイヤモンドエンジニアリングは、ペレット状の廃プラスチックやバイオマスをガス化炉へ供給するための固形燃料供給設備を電力中央研究所より受注し、2022年12月に納入を完了しました。

この委託業務は、ペレット状の固形燃料（廃プラスチックやバイオマス）をガス化炉に微粉炭と同時に吹き込み、一緒にガス化させる技術を開発することを目的の一つに掲げるプロジェクトです。2015年に電力中央研究所に納入した微粉炭供給設備の技術に加え、固形燃料を定量的に安定して吹き込む技術が高く評価され、今回の受注に繋がりました。当社グループは多様な燃料の利用による化石燃料の使用量低減やCO2排出量削減に貢献してまいります。

（一財）電力中央研究所の「多様な燃料を利用するCO2 回収型ポリジェネレーションシステム基盤技術開発」（PNP16002）の一部として採用されたダイヤモンドエンジニアリングの固形燃料供給設備





クオリティオブライフ向上に貢献する建材

● 鏡面加飾ルーバー

アルミの色調や木目調が一般的な外装ルーバーですが、洗練されたデザインへの対応が可能な鏡面カラーを実現した鏡面加飾ルーバー（写真上）を開発しました。

2023年6月に発売を予定しています。



● LED笠木・LED手すり

「LED笠木」（写真下）が2022年度グッドデザイン賞を受賞しました。アルミ笠木にLED照明を内蔵し、間接照明として建物を効果的に演出します。



 GOOD DESIGN AWARD 2022

これらは、次世代の成長ドライバーになりうる製品として期待しています。

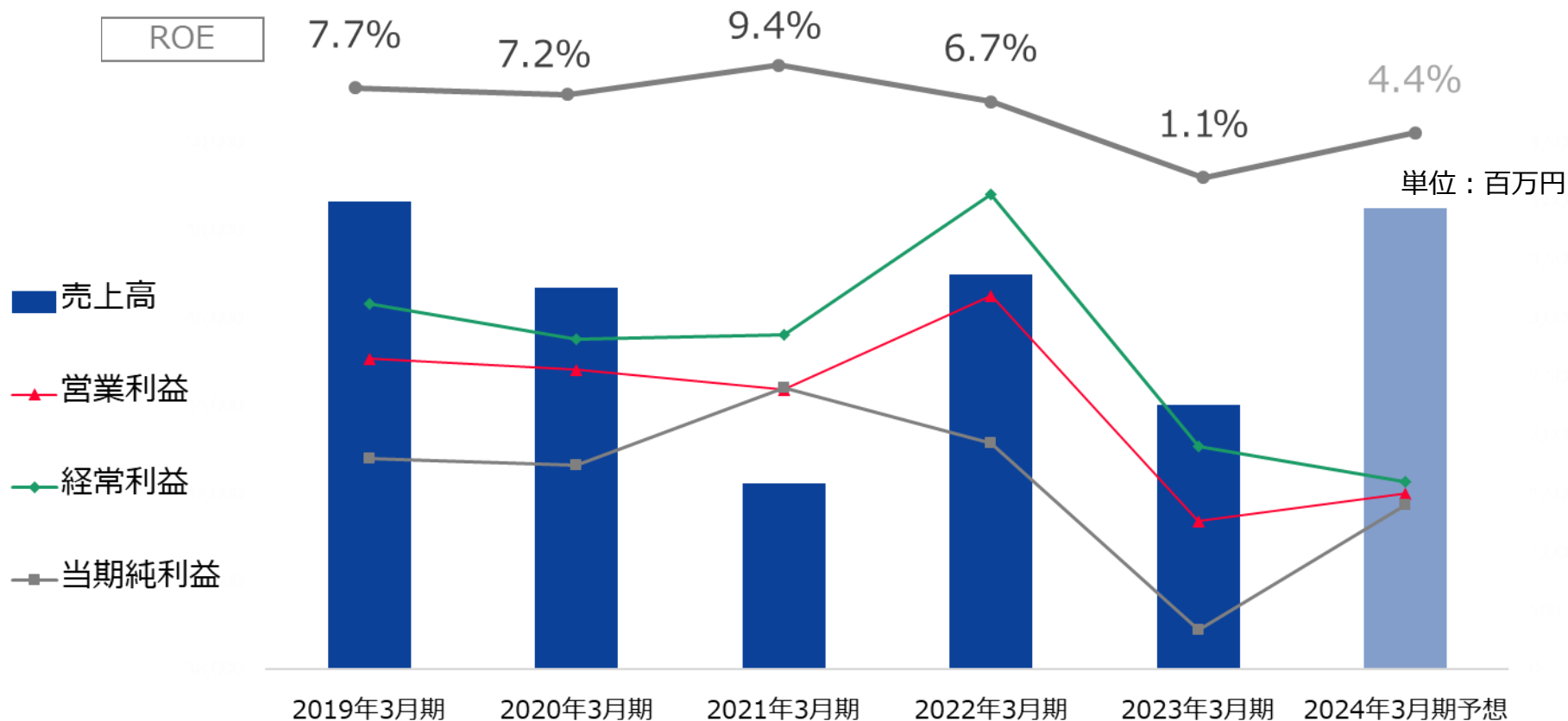
※建材関連事業は当社グループのビニフレーム工業が主に担っています。



付属資料



連結業績の推移

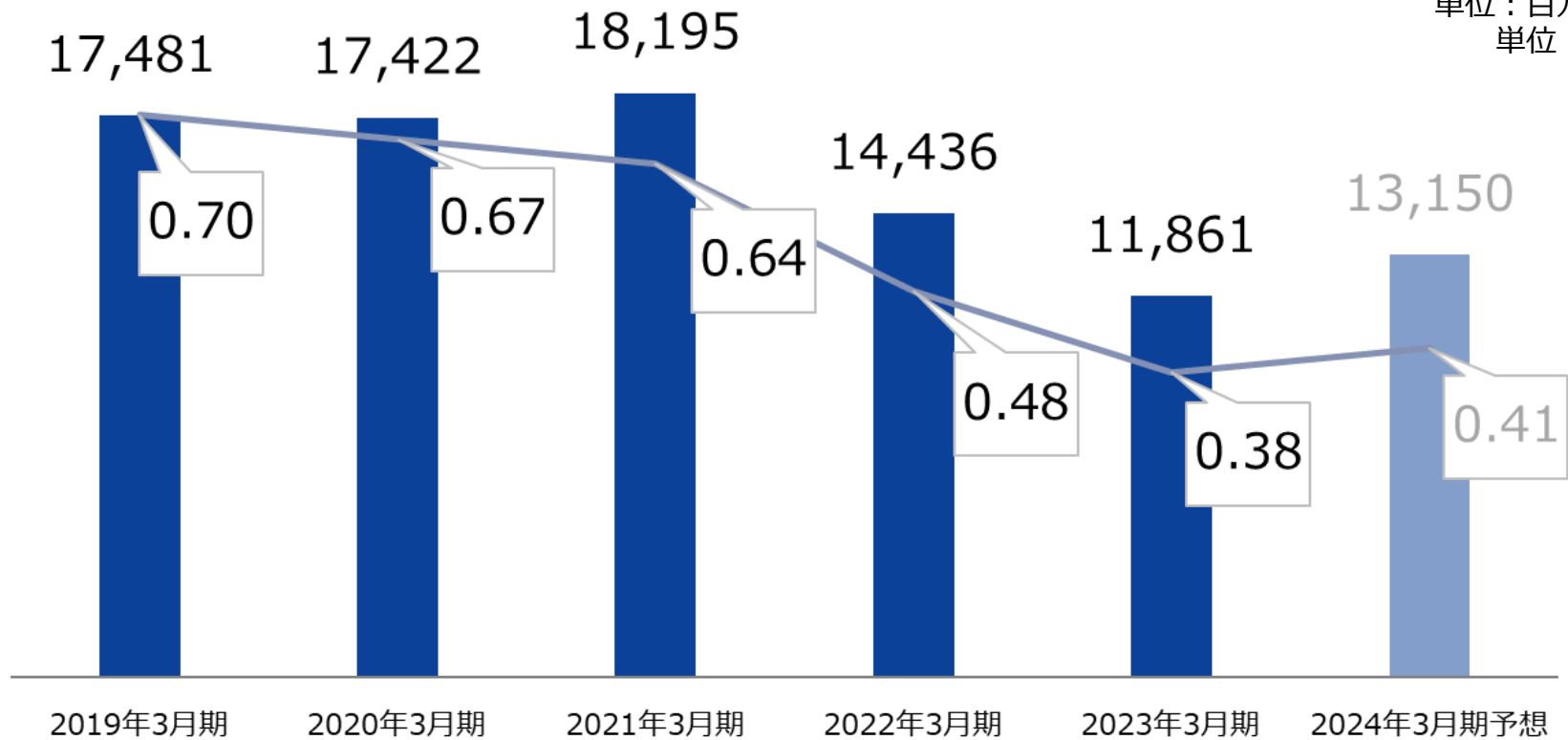


	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期予想
売上高	48,651	46,699	42,231	47,003	44,008	48,500
営業利益	2,649	2,557	2,388	3,192	1,261	1,500
営業利益%	5.4%	5.5%	5.7%	6.8%	2.9%	3.1%
経常利益	3,119	2,817	2,852	4,055	1,902	1,600
経常利益%	6.4%	6.0%	6.8%	8.6%	4.3%	3.3%
当期純利益	1,800	1,741	2,406	1,930	332	1,400

有利子負債・D/Eレシオ及び配当の推移



単位：百万円
単位：倍



■有利子負債 —D/Eレシオ

配当は1株あたり

機関投資家の皆様からのご質問・お問い合わせ先

日本カーバイド工業株式会社

経営企画部 広報・IRグループ

メールにてお問い合わせください
prir@carbide.co.jp

【将来見通し等に関する注意事項】本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えてものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成していますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。